



3つの挑戦(苦手・上達・未知への挑戦)

「智・徳・体・感・行」に基づいた自学・共学システム「学びの泉」の構築に向けて

令和元年6月8日(土)

学校法人安城学園 学園長

寺部 暁



はじめに





私たちの共通目標

◆ 量的目標

- できるだけ**早期(3年以内)**に**持続可能性**の基盤の仕組みを構築する

創立110周年

◆ 質的目標

- できるだけ**早期(3年以内)**に「**智性・徳性・身体・感性・行動**」に基づいた**自学・共学システム**(教育システム「**学びの泉**」)の基礎を構築する

創立105周年

令和4 2022年度

令和3 2021年度

令和2 2020年度

平成31 2019年度

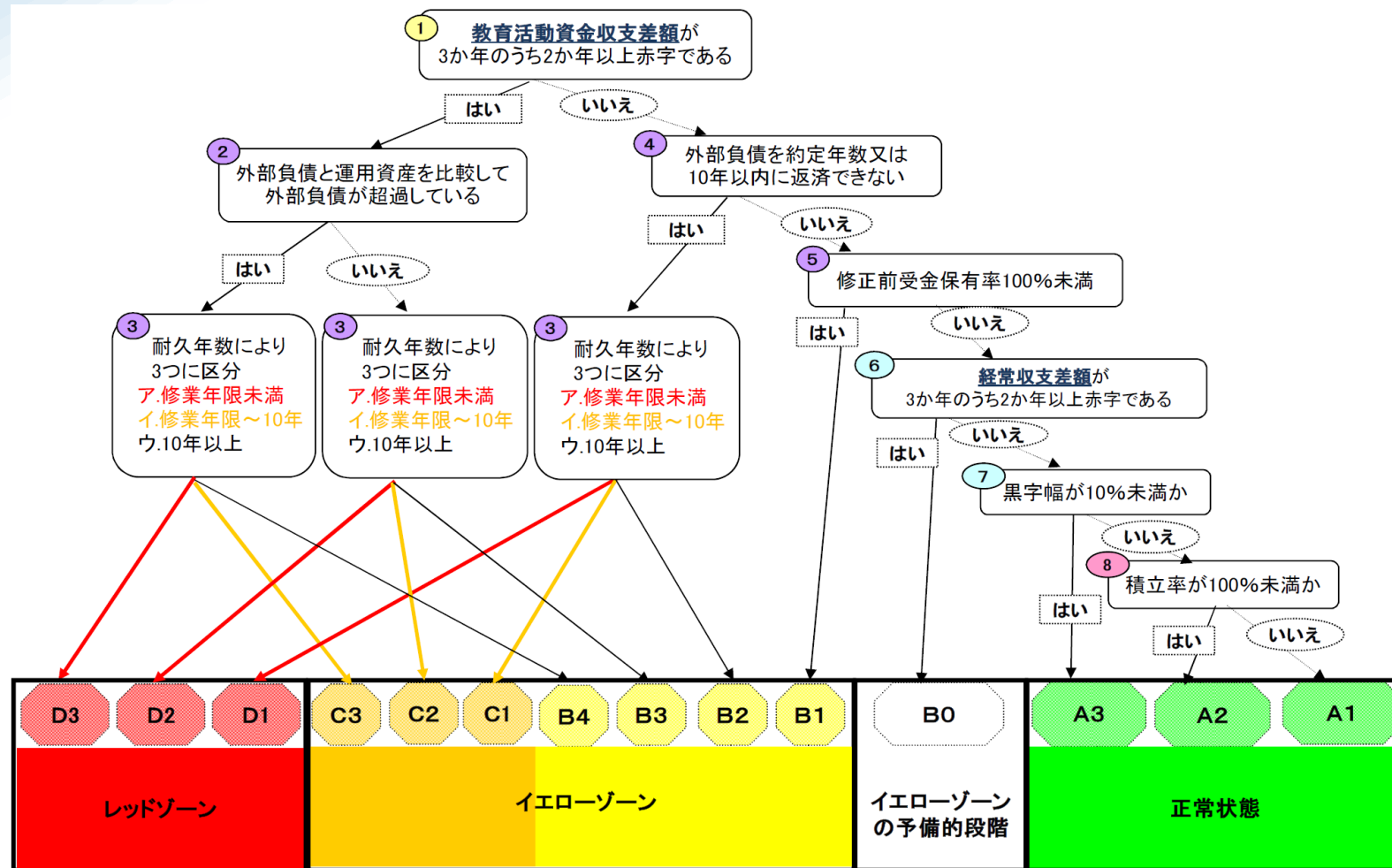
平成30 2018年度

平成29 2017年度





量的目標の確認



◆「定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分」の判定フローチャート

日本私立学校振興・共済事業団が作成
(法人全体・平成27年度から版)



量的目標の確認

1 教育活動資金収支差額が
3か年のうち2か年以上赤字である

2 外部負債と運用資産を比較して
外部負債が超過している

4 外部負債を約定年数又は
10年以内に返済できない

はい

いいえ

はい

いいえ

3 経常収支差額が

3か年のうち2か年以上赤字である

3 耐久年数により
3つに区分
ア.修業年限未満
イ.修業年限～10年
ウ.10年以上

3 耐久年数により
3つに区分
ア.修業年限未満
イ.修業年限～10年
ウ.10年以上

3 耐久年数により
3つに区分
ア.修業年限未満
イ.修業年限～10年
ウ.10年以上

6 経常収支差額が

3か年のうち2か年以上赤字である

7 黒字幅が10%未満か

いいえ

はい

8 積立率が100%未満か

はい

いいえ

D3

D2

D1

C3

C2

C1

B4

B3

B2

B1

B0

A3

A2

A1

レッドゾーン

イエローゾーン

イエローゾーンの
予備的段階

正常状態

◆「定量的な経営判断指標に
基づく経営状態の区分」の
判定フローチャート

日本私立学校振興・共済事業団が作成
(法人全体・平成27年度から版)

現状は『B0』

目標は『A2』



量的目標の確認

◆ 収容定員 … 5, 200名

【内訳】

- 大学 …… 760名
- 短期大学 …… 640名
- 高校A …… 1, 500名
- 高校B …… 1, 500名
- 3幼稚園 …… 800名

◆ 専任教職員 … 312名

【内訳】

- 大学 …… 68名
- 短期大学 …… 51名
- 高校A …… 74名
- 高校B …… 74名
- 3幼稚園 …… 33名
- 法人本部 …… 12名



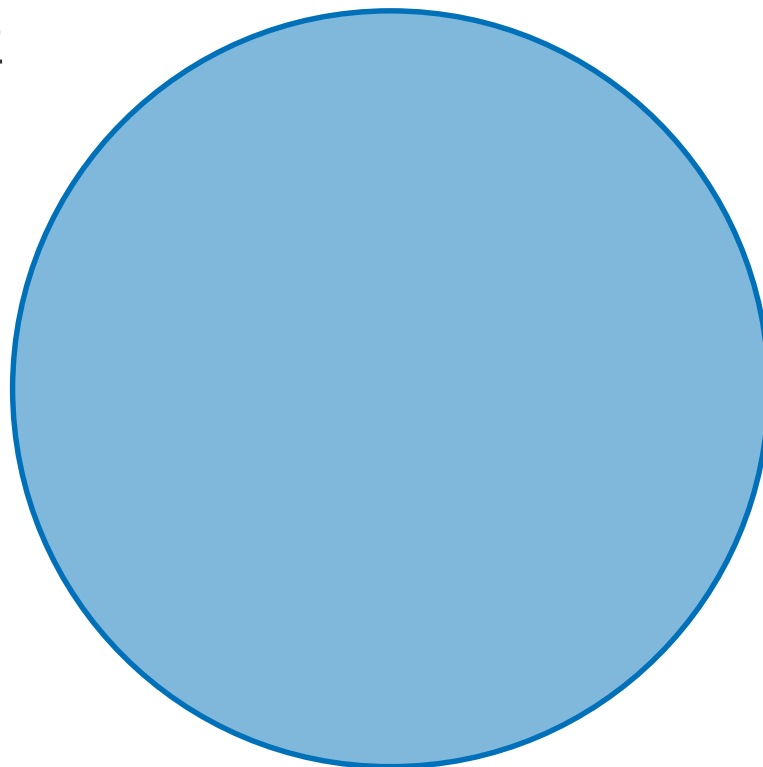
私たちの仕事とは





専任教職員が取り組むべき仕事

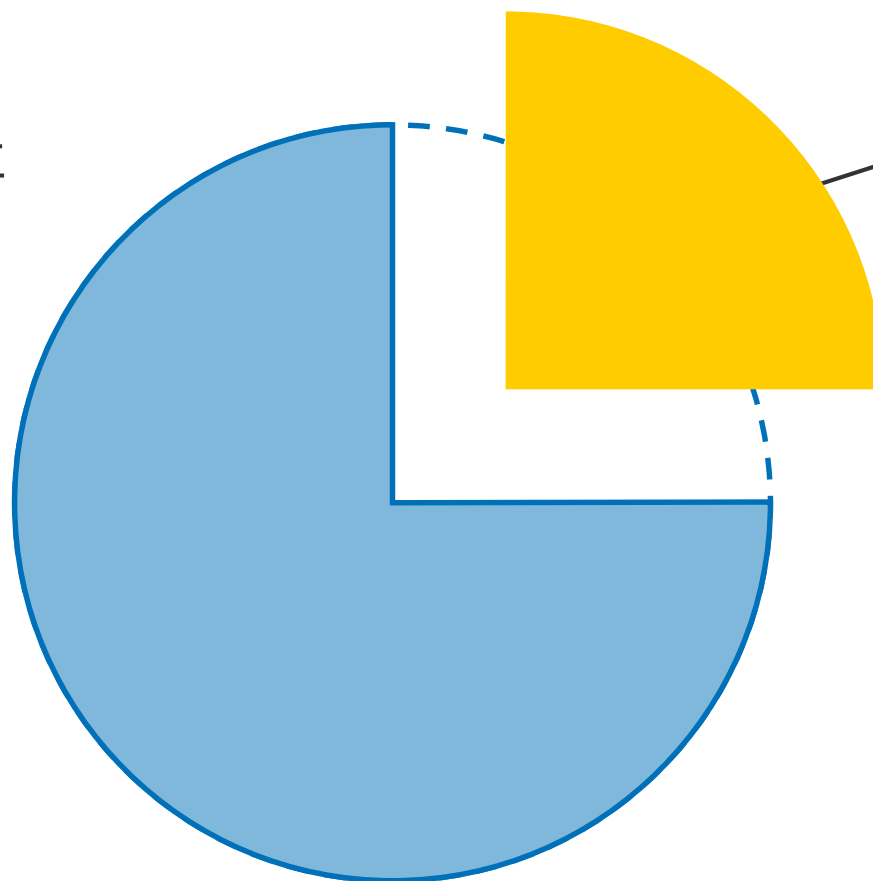
学校教育に関する仕事





専任教職員が取り組むべき仕事

学校教育に関する仕事



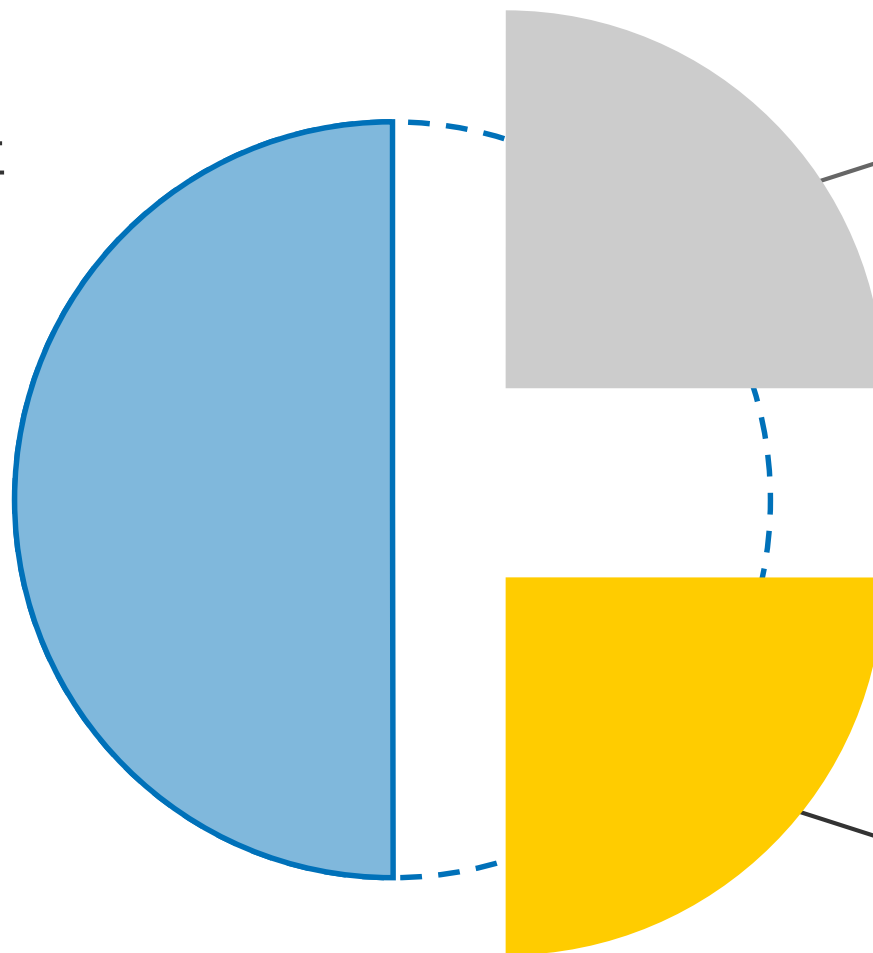
学外に委託できる仕事





専任教職員が取り組むべき仕事

学校教育に関する仕事



学外に委託できる仕事

AI・ロボットでもできる仕事



専任教職員が取り組むべき仕事

学校教育に関する仕事

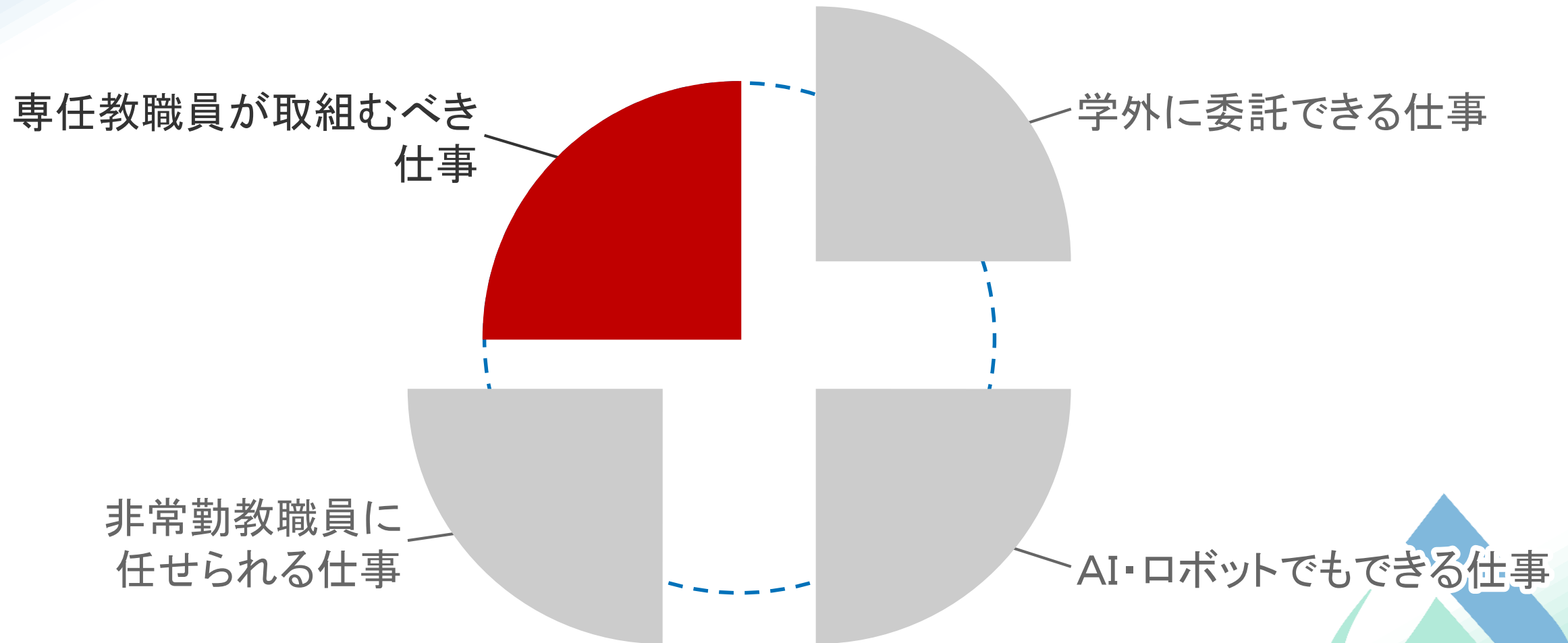
学外に委託できる仕事

非常勤教職員に
任せられる仕事

AI・ロボットでもできる仕事



専任教職員が取り組むべき仕事





主体性 と 汎用的能力





私立学校とは

◆ 寄附行為 第3条(目的)

- 建学の理念と建学の精神と四大精神の実践を通して
- 経済的・政治的・文化的に自立できる社会人を育成することによって
- 地域と国際社会に貢献することである





私立学校とは

◆ 寄附行為 第4条(建学の理念)

- 庶民性

⇒「誰でも未知の可能性である潜在能力を持っている」

- 先見性





私立学校とは

◆ 寄附行為 第5条(建学の精神)

- 生命体構想
- 個人として自立しつつありとあらゆる生命体と共生することによって
- 生きる意志と生きる力と生きる歓びに満ち溢れた人生を送ること





私立学校とは

◆ 寄附行為 第6条(主たる事業)・第9条第1項(教育方針)

- 「**智・徳・体・感・行**」に基づいた、**学修(学習)システム**と**自学・共学システム**を開発し
- これに基づいて**本法人の事業**を行う
 - ・ こどもの潜在能力開発事業
 - ・ おとなの潜在能力開発事業
 - ・ 地域の潜在能力開発事業

◆ 寄附行為 第7条(設置する学校)

● 第6条に掲げた事業を推進するために、次に掲げる学校を設置する

- 愛知学泉大学
- 愛知学泉短期大学
- 安城学園高等学校
- 岡崎城西高高等学校
- 愛知学泉短期大学附属幼稚園
- 愛知学泉大学附属幼稚園
- 愛知学泉大学附属桜井幼稚園



私立学校とは

◆ 寄附行為 第8条(行動指針)

- 安城学園教職員憲章に従って行動する
- 教育基本法・学校教育法・私立学校法をはじめとする関係法令に従って行動する





安城学園専任教職員の仕事は2種類

教育の標準化を推進する仕事

教育の差別化を推進する仕事





安城学園専任教職員の仕事

◆ 寄附行為 第3条(目的)より

- 建学の理念と建学の精神と四大精神の実践を通して
- 経済的・政治的・文化的に自立できる社会人を育成することによって
- 地域と国際社会に貢献することである

差別化



安城学園専任教職員の仕事

◆ 寄附行為 第4条(建学の理念)より

- 庶民性

⇒「誰でも未知の可能性である潜在能力を持っている」

- 先見性

差別化



安城学園専任教職員の仕事

◆ 寄附行為 第5条(建学の精神)より

- 生命体構想
- 個人として自立しつつありとあらゆる生命体と共生することによって
- 生きる意志と生きる力と生きる歓びに満ち溢れた人生を送ること

差別化



安城学園専任教職員の仕事

◆ 寄附行為 第6条(主たる事業)・第9条第1項(教育方針)より

- 「**智・徳・体・感・行**」に基づいた、**学修(学習)システム**と**自学・共学システム**を開発し
- これに基づいて**本法人の事業**を行う
 - ・ こどもの潜在能力開発事業
 - ・ おとなの潜在能力開発事業
 - ・ 地域の潜在能力開発事業

差別化



安城学園専任教職員の仕事

◆ 寄附行為 第7条(設置する学校)より

● 第6条に掲げた事業を推進するために、次に掲げる学校を設置する

- ・ 愛知学泉大学
- ・ 愛知学泉短期大学
- ・ 安城学園高等学校
- ・ 岡崎城西高高等学校
- ・ 愛知学泉短期大学附属幼稚園
- ・ 愛知学泉大学附属幼稚園
- ・ 愛知学泉大学附属桜井幼稚園

差別化



安城学園専任教職員の仕事

◆ 寄附行為 第8条(行動指針)より

- 安城学園教職員憲章に従って行動する

差別化

- 教育基本法・学校教育法・私立学校法をはじめとする関係法令に従って行動する

標準化



教育の標準化の例

文部科学省が考える教育の質に関する客観的指標

◆ 全学的チェック体制

- ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの点検・評価
- 全学的な教学マネジメント体制の構築
- IR機能の整備
- 教員の評価制度の設定

◆ 学生の学び保証体制

- 学生の学修時間・学修行動の把握
- 学生の学修成果の把握
- 学生による授業評価結果の活用

◆ カリキュラムマネジメント体制

- 履修系統図またはナンバリングの実施
- アセスメントポリシーの整備
- GPA制度の導入、活用
- 履修科目登録単位数の上限設定
- 準備学習に必要な時間等のシラバスへの明記
- シラバス記載内容の第三者チェックの実施

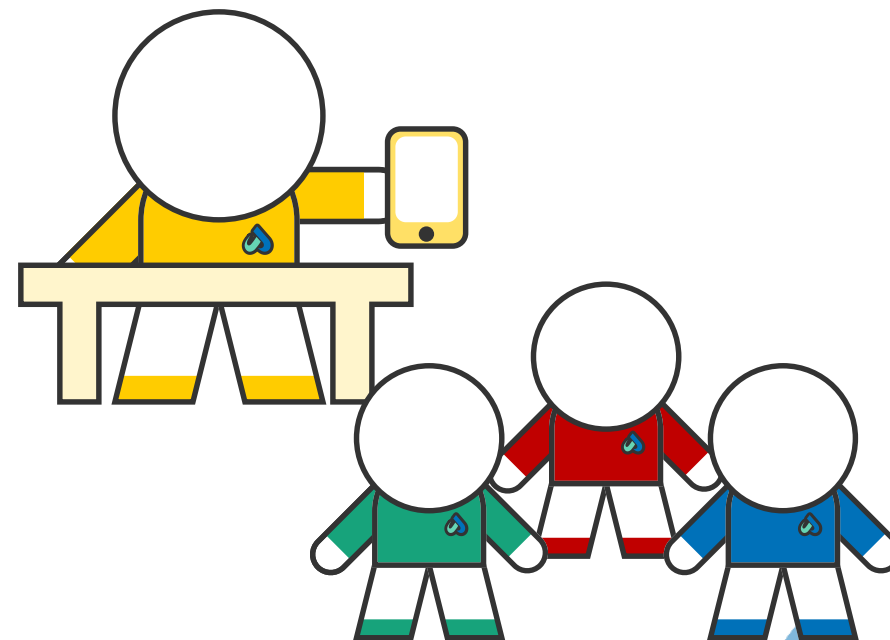
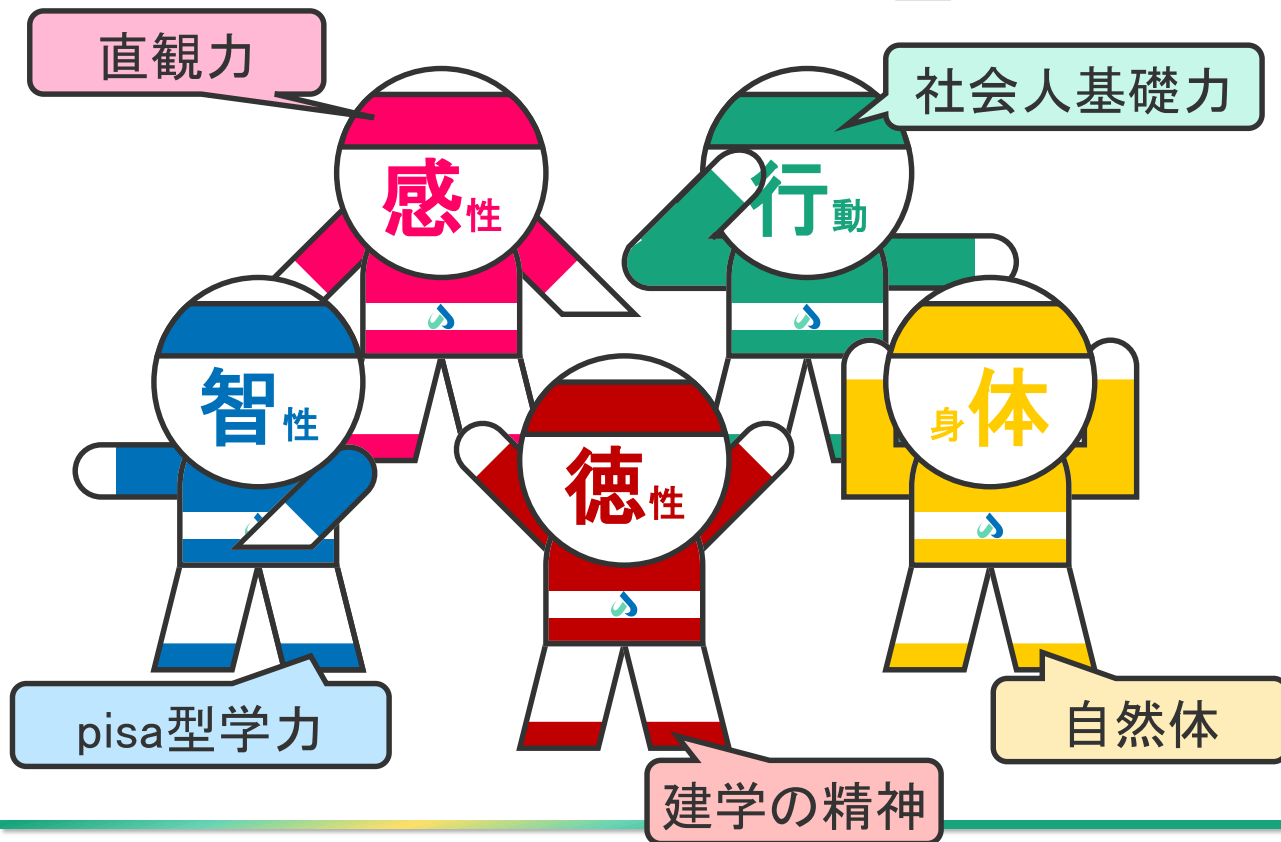


付加価値を生み出すために

選択と集中



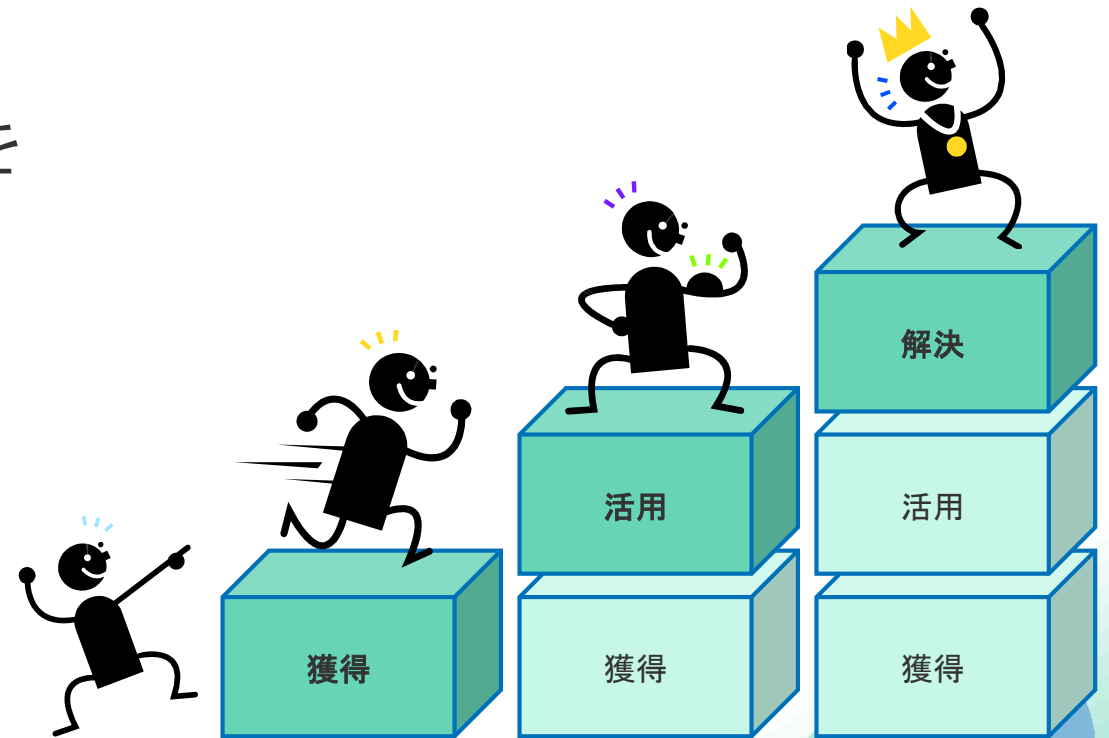
智性・徳性・身体・感性・行動 に基づいた



自学・共学システム

pisa型学力(課題解決型学力)

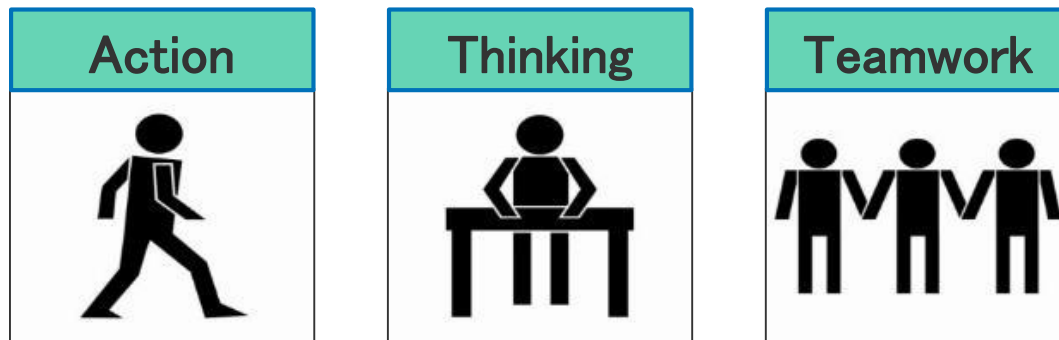
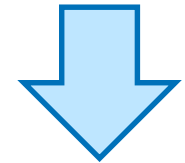
- ◆ 3つの能力を統合した課題解決に必要な学力
- ◆ 「獲得する力」から「活用する力」そして「解決する力」へと成長させることを目指す
 - 課題を解決するために必要な知識・情報等を
獲得する力
 - 獲得した知識・情報等を
活用する力
 - 獲得した知識・情報等を活用して
課題を解決する力





社会人基礎力(課題解決型行動特性)

- ◆ 複数の人々がお互いに協力・協働して共通の課題等を解決していくに当たって、一人ひとりのメンバーに要求される3つの能力を統合した行動特性



- 前に踏み出す力
- 考え抜く力
- チームで働く力



主体的で 対話的で 深い 学び





主体的で 対話的で 深い 学び



社会人基礎力
「主体性」



社会人基礎力
「傾聴力」「発信力」



社会人基礎力
「創造力」
pisa型学力
「活用力」



おとなの潜在能力開発





主体的で 対話的で 深い 学び



社会人基礎力
「主体性」



社会人基礎力
「傾聴力」「発信力」



社会人基礎力
「創造力」
pisa型学力
「活用力」



仕事を通して教育システム「学びの泉」

主体的で 対話的で 深い 働き



社会人基礎力
「主体性」



社会人基礎力
「傾聴力」「発信力」



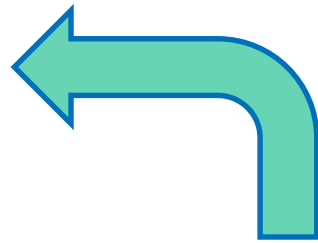
社会人基礎力
「創造力」
pisa型学力
「活用力」



仕事を通して7つの能力アップ



全ての教育活動を通して
あそびと集団生活を通して



子どもたちの

pisa型学力

建学の精神

自然体

直観力

社会人基礎力

自ら学ぶ

共に学ぶ

能力がアップ





仕事を通して7つの能力アップ



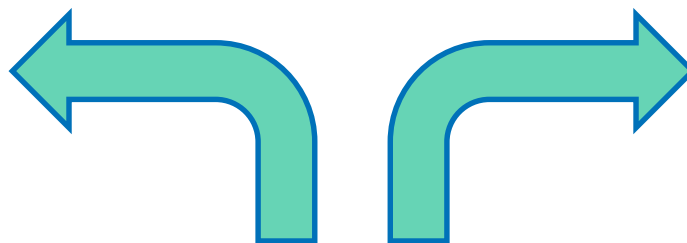
子どもたちの

pisa型学力
建学の精神
自然体
直観力
社会人基礎力

自ら学ぶ
共に学ぶ

能力がアップ

全ての教育活動を通して
あそびと集団生活を通して



おとなの自分も

pisa型学力
建学の精神
自然体
直観力
社会人基礎力

自ら学ぶ
共に学ぶ

能力がアップ



学校の教育力
=
教育職員の教育力 + 事務職員の教育力





$$\begin{array}{c} \text{学校の教育力} \\ = \\ \text{教育職員の教育力} + \text{事務職員の教育力} \\ \underbrace{\hspace{15em}} \\ \text{教職協働} \end{array}$$

◆行き詰まるセクショナリズム

◆教員・職員の枠に捉われないで相互連携が必要

- 一般論として、8割以上の教職員が必要性を認識している

◆教職協働を進めるために必要と考える主な項目

- 目標・方針の共有や一致
- 教職員相互の理解

(日本私立大学協会「事務局職員の力量形成に関する調査」(2009)より)

◆教育職員と事務職員の相互理解

- 教育のことが理解できる事務職員
- 事務のことが理解できる教育職員

◆教育職員と事務職員の対等性

◆教育職員と事務職員の意識改革

◆教育も事務もできる教職員が理想



今後の採用で求める教職員像

- ◆ pisa型学力・建学の精神・社会人基礎力を発揮して、
教育システム「学びの泉」を開発・実践できる
- ◆ pisa型学力・建学の精神・社会人基礎力を発揮して、
自ら働く・共に働くことのできる
- ◆ 教職協働を推進できる
- ◆ 年齢・性別などに関係なく、
継続的・主体的に「第三（未知へ）の挑戦」ができる



今いる教職員の役割

- ◆ベテラン(先輩)教職員は
中堅・若手(後輩)教職員のモデル
- ◆中堅(先輩)教職員は
若手(後輩)教職員のモデル





今いる教職員の役割

- ◆ベテラン(先輩)教職員は
中堅・若手(後輩)教職員のモデル
- ◆中堅(先輩)教職員は
若手(後輩)教職員のモデル

教育システム「学びの泉」開発のカギは
ベテラン教職員



3つの挑戦(苦手・上達・未知への挑戦)

「智・徳・体・感・行」に基づいた自学・共学システム「学びの泉」の構築に向けて

3つの挑戦

◆ 苦手を克服するための挑戦

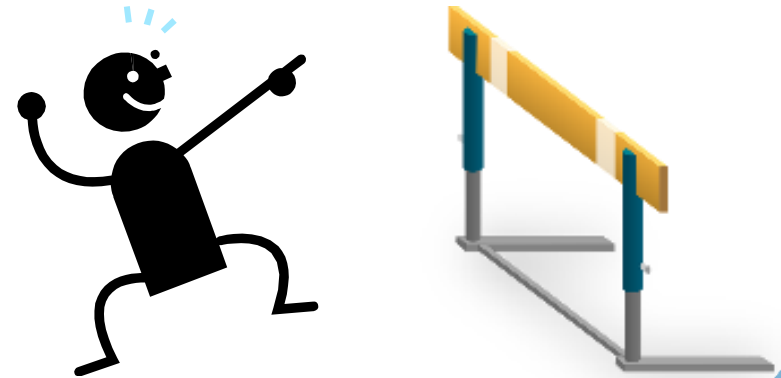
⇒ **苦手への挑戦** (第一の挑戦)

◆ 更なる高みを目指すための挑戦

⇒ **上達への挑戦** (第二の挑戦)

◆ 未だ経験していないことへの挑戦

⇒ **未知への挑戦** (第三の挑戦)

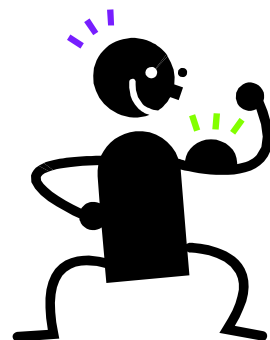
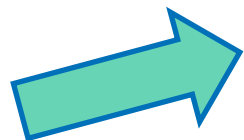


3つの挑戦

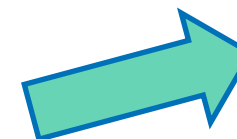
上達への挑戦
(第二の挑戦)

未知への挑戦
(第三の挑戦)

上手くできた

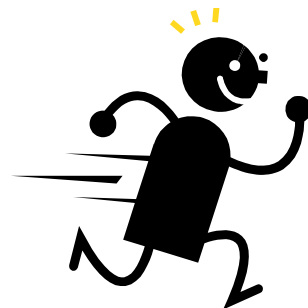


さらに上達



成功・成果！

上手くできなかった



苦手への挑戦
(第一の挑戦)

苦手を克服





3つの挑戦

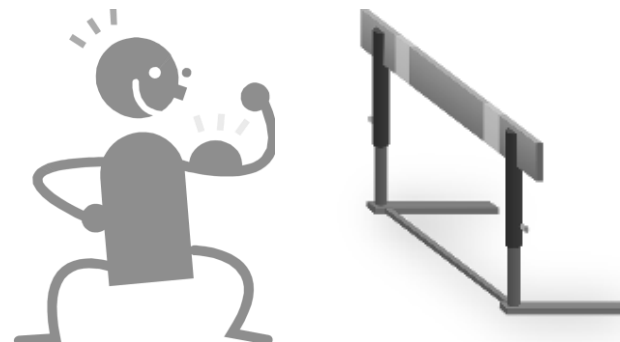
上達への挑戦
(第二の挑戦)

さらに上達



成功・成果！

上手くできた

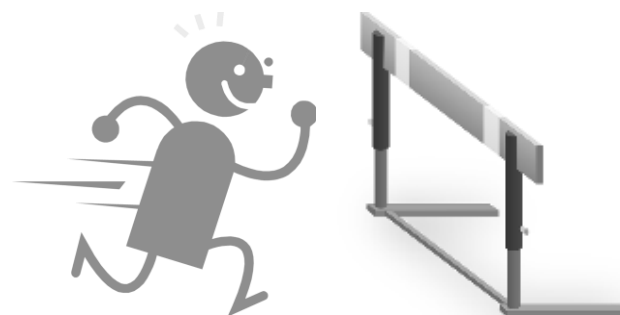


未知への挑戦
(第三の挑戦)



挑戦しなければ始まらない

上手くできなかった



苦手を克服

苦手への挑戦
(第一の挑戦)



おわりに





私たちの共通目標

◆ 量的目標

- できるだけ**早期(3年以内)**に**持続可能性**の基盤の仕組みを構築する

創立110周年

◆ 質的目標

- できるだけ**早期(3年以内)**に「**智性・徳性・身体・感性・行動**」に基づいた**自学・共学システム**(教育システム「**学びの泉**」)の基礎を構築する

創立105周年

令和4 2022年度

令和3 2021年度

令和2 2020年度

平成31 2019年度

平成30 2018年度

平成29 2017年度





共通の目標達成を目指して 未知への挑戦を！

